

授業改善書

科目名	教育原理
担当者	吉野剛弘

授業の概要

教育の意義、思想及び歴史を講じる科目として、それぞれの項目について解説する純然たる講義形式で授業を進めた。

基本的な項目についての知識の定着を図るため、定期試験のほかに小テストを2回実施した。これは概して試験というものに慣れていない履修者のレディネスを考慮したとともに、4年次に受験することになるであろう各種採用試験への準備も兼ねてのことである。

授業の問題点

昨年度に比べて、数値は上昇傾向にある。もともと、回答方法の変更により回答数が減っているので、単純比較は難しい。

むしろ気になるのは、2コマ開講している中で、双方の回答の数値の差である。統計的検定はしていないが、概して4限クラスが低い。西日の入る教室での授業という環境面が影響していることは否めない。正直なところ、担当者としてもやりづらかった。

学生の授業満足度

上述の通り、数値が上昇傾向にあるので、満足度も上がっている。それにともなっか、成績も昨年度より良好である。

ただし、これは授業そのものの変化というより、月曜午前中（1・2限）から金曜午後の開講に変わったこと、2年目ということで昨年度の履修者からの情報（評価が厳格であること）が回ることによるレディネス（というより覚悟）の上昇が理由であると思われる。詳細は来年度以降の推移を見守るしかない。

授業改善の課題と方策

昨年度に課題として示した1コマの授業で示す内容の分量に関しては、若干減らすにとどまったが、成績は上昇した。同じく課題として示した授業時間外の学習についても、その数値は上昇している。つまるところ、履修者にいかに勉強させるかに尽きるということが立証されたと評価せざるを得ない。

一方で、成績不振者がいることは事実である。卒業必修科目であることから、そのような学生への対応は考える必要があるだろう。ただし、各種免許の必修科目である以上、レベルを下げないことが前提である。

その他

特になし。